

交通バリアフリーニュース



「子育て応援タクシー」がバリアフリー優秀大賞受賞！

NPO法人 わははネット
 有限会社 花園タクシー

バリアフリー推進ネットワーク(事務局:交通エコロジー・モビリティ財団)は本年度の交通バリアフリー優秀大賞に、香川県下で展開中の「子育て応援タクシー」(NPO法人わははネット／(有)花園タクシー)など五つの事業を選びました。

「子育て応援タクシー」の受賞理由は、これまで十分に対応されていなかった子育て支援に着目した点の先進性や、新たなビジネスモデルの展開、同業種への波及効果の可能性等が高く評価されたものです。NPO法人わははネット代表中橋さんと(有)花園タクシー鎌野社長は、11月14日(月)に東京で開催された「第4回交通バリアフリー推進の集い」の場で表彰をされました(右写真)。



表彰状を受け取る、中橋さん(左)と鎌野さん(右)

この「交通バリアフリー推進の集い」は、自治体、交通事業者、NPO、ボランティア団体、研究者等、全国のバリアフリー関係者が一堂に会し、連携、交流の輪を広げることを目的に、平成14年から開催されているものであり、毎回、全国各地のバリアフリー推進の取り組みの中から優秀な事例を選び表彰しています。

子育て応援タクシーの概要

●導入の経緯

ある妊婦の方の「破水して病院に向かう際に、タクシー運転者の対応が冷淡であった」という声に応じて、わははネット中橋代表が企画。現在、子育て中であり、現実に苦勞をした経験のある、(有)花園タクシー鎌野社長が、16年7月から試験運行を始めました。

●事業の内容

- ・チャイルドシート・ジュニアシートを設置して送迎
- ・子育てタクシーステッカーの貼付
- ・運賃は通常どおりの時間距離併用制運賃
- ・4つのサービスの実施
 - ・ひよこコース(お子様が一人で乗る場合)
 - ・カンガルーコース(乳幼児と保護者が同乗する場合)
 - ・ふくろうコース(急なトラブル、夜中の移動など)
 - ・たまごコース(妊婦ママの出産に伴う入退院・定期検診、破水時など)



●事業の効果

従来、会社による利用が多かったところが、お母さんの利用が増えるなど客層が変わっています。また、安全面に十分配慮しているため、タクシーに対する印象も怖いという気持ちの払拭(信頼)につながっているようです。増収効果については長い目で見る必要がありますが、リピーターの確保、子育てが終わった後も継続しての利用が期待できそうです。

今後は、平成17年11月から年末にかけて、常磐タクシー(高松)、大和タクシー(坂出)、富士タクシー(善通寺)、三木タクシー(三木町)、本山タクシー(豊中町)の5社が子育てタクシーに参入を予定しています。

バリアフリー大賞を受賞して



中橋恵美子

授賞式に参加し、国土交通省の皆様はじめ、非常に多くの方がこの取り組みに関心を持ち、評価をいただいていることに感激いたしました。また昨日は横浜の交通政策局の方々からもこの件について問い合わせがあり、全国への広まりも感じています。

授賞式ではバリアフリーを考える講演会が同時に開催されたため、高齢者、障害者の団体が多く参加されており、様々な地域でバリアフリーに向けて活動されている団体の皆さんと交流することもできました。

その中でも「子育て」というジャンルは珍しがられ、今までのバリアフリーの概念の中に子連れ、妊婦というのが少なかったことを改めて感じると共に、今後は高齢者も障害者も子どもも妊婦も、みんなに優しいまち作りに向けて各種団体と連携していきたいと感じました。

花園タクシー

鎌野実知子

昨年の夏に試験運行を始めるにあたって、1人でも利用してくれて「助かるね」って思ってもらえたらそれで成功だよ、と2人で言いながら始めたこのタクシー。1年後の今を想像する事など全く出来ませんでした。

同じ業界の周囲からは冷やかな「儲けになるん？」といったストレートな言葉を聞くこともしばしばありながら・・・でも、自分の母親としての経験を含めた上で絶対に困ってて使いたいと思っている人はいるはず！という気持ちの方が強かったです。

お客様に接するドライバーの理解を得ながら、また地域の方からの協力や応援がありチャイルドシートを譲っていただいたり、利用者の方から「こうするといよいよ」と提案をもらったり・・・みんなに支えられていただけた賞だと思っています。

そして、この子育て応援タクシーを運行するに当って何よりお客様を含めて地域の方からの「信頼」をとっても感じる今日この頃です。私達にとって一番の励みになり財産になっています。本当にありがとうございました。

新たに数社が運行しておりますが、この子育て応援タクシーが利用されるお客様にとって本当に快適な交通手段としてこれからも色々な地域で同じ想いを持って増えていってもらえたらと心から願っております。

●NPO法人わははネットの概要

- ・所在地 香川県坂出市白金町
- ・主な活動内容
子育て情報誌やメールマガジンの発行、
子育て応援ホームページの開設
常設のあそび場「わはは・ひろば」の運営や子育てフェスティバルなどのイベントの開催
子育てママと関係各機関のパイプ役として、様々な支援活動の実施

●(有)花園タクシーの概要

- ・所在地 香川県高松市花園町
- ・車両数 25台
- ・運転者数 29名

インターネットモニターアンケート結果について（概要）

四国運輸局では、この度「交通バリアフリー」を課題として、インターネットモニターアンケートを実施しました。

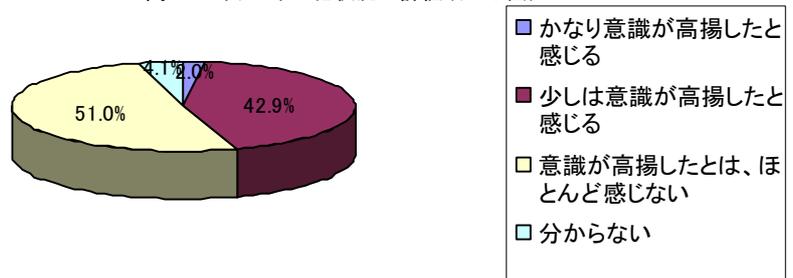
このインターネットモニター制度は、国土交通省が、広く全国の老若男女の皆様から質の高いご意見・ご要望をお聴きし、今後の国土交通行政の施策展開の参考とすることを目的として、平成16年度から実施しているものです。

四国在住の49名のモニターから寄せられたアンケート結果の概要は次のとおりです。

◆バリアフリー意識の高揚については評価が分かれる

四国における交通バリアフリーの現状(ソフト面)をどう評価するかという問いに対して、「意識が高揚したとはほとんど感じない」という人と「かなり、あるいは少し意識が高揚したと感じる」人がほぼ同数であった。

問3 バリアフリー化状況の評価(ソフト面)

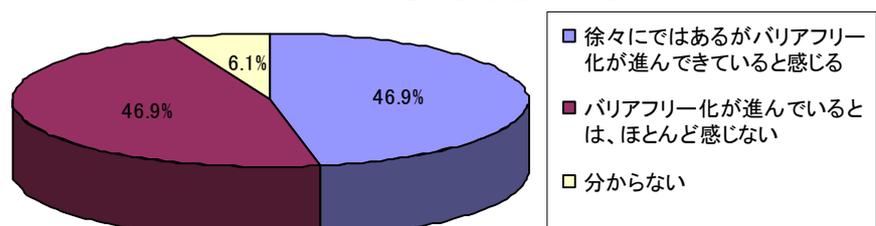


◆旅客施設、車両等(ハード面)のバリアフリー化についても評価は分かれる

四国における交通バリアフリーの現状(ハード面)をどう評価するかという問いに対して、「徐々にではあるがバリアフリー化が進んでいる」という人と「バリアフリー化が進んでいるとは感じない」という人が全く同数であった。

バリアフリーの現状に対するモニターの評価は、まだそれほど高くなっていないものと考えられる。

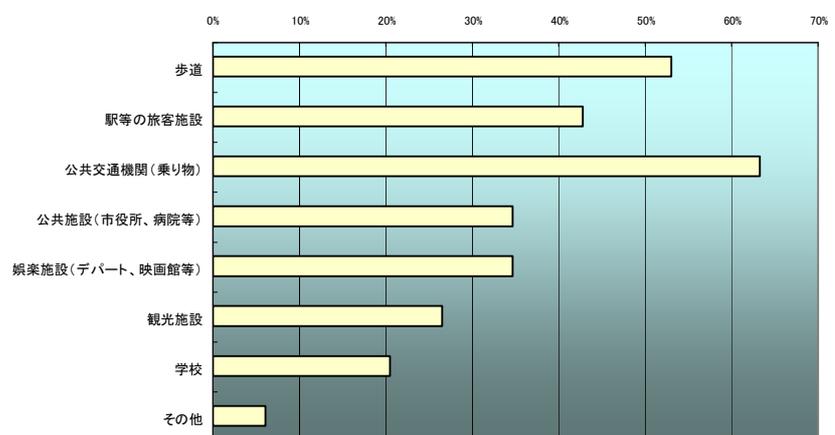
問5 バリアフリー化状況の評価(ハード面)



◆バリアフリー化が急がれる施設は、①公共交通機関、②歩道、③旅客施設

バリアフリー化が急がれる施設についての問いでは、「移動手段としての公共交通機関(乗り物)のバリアフリー化」をあげたモニターが60%を超えたほか、歩道、駅等の旅客施設がそれに次いで多くっており、移動に必要な交通インフラのバリアフリー化を多くのモニターが望んでいることが分かる。

問7 バリアフリー化が急がれる施設



全国の交通バリアフリー化の進捗状況について

(公共交通事業者等から提出された移動円滑化実績等報告書の全国集計結果の概要です)

高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律(以下「交通バリアフリー法」という。)が平成12年11月に施行されてから、5年が経過しようとしております。同法に基づき、公共交通事業者等による旅客施設や車両等のバリアフリー化が進められているところです。

今般、交通バリアフリー法第22条に基づく公共交通事業者等からの移動円滑化実績等報告(平成17年3月末のバリアフリー化の状況(全国計))が取りまとめられましたので、その概要を下記のとおりお知らせします。

交通バリアフリー化の進捗状況<ポイント>

全旅客施設

- ・段差の解消 49.1% (H15年度より約 5.0ポイント上昇)
- ・視覚障害者誘導用ブロック 80.3% (同 約 5.9ポイント上昇)
- ・身体障害者用トイレ 33.1% (同 約11.9ポイント上昇)

車両等

- ・鉄軌道車両 27.9% (H15年度より約 4.2ポイント上昇)
- ・ノンステップバス 12.0% (同 約 2.7ポイント上昇)
- ・旅客船 7.0% (同 約 2.6ポイント上昇)

同法に基づく基本方針では、原則として平成22年(2010年)までに、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人以上の全ての旅客施設についてバリアフリー化を実施する等の目標を掲げており、国土交通省としては、

・補助・税制等の支援措置

・市町村が作成する移動円滑化基本構想の策定の促進

等により、今後も引き続き、交通バリアフリー化の実現のための取り組みを推進していきます。

都道府県別バリアフリー情報について



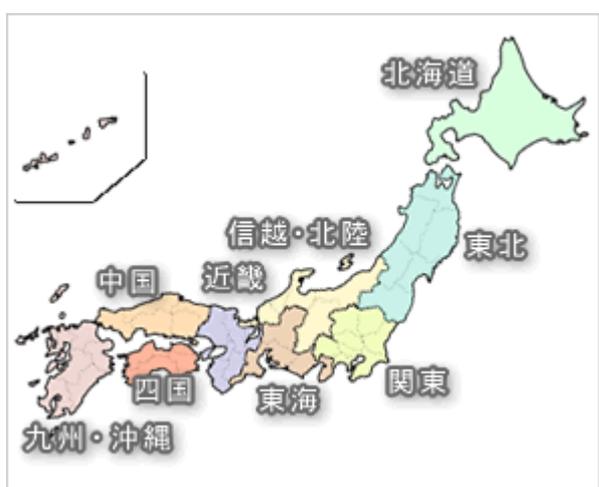
都道府県別バリアフリー情報をご存じですか？

国土交通省では、昨年度からバリアフリー基本構想の作成状況や移動円滑化実績報告等を各都道府県別にとりまとめ、これらの情報を「都道府県別バリアフリー情報」としてホームページサイト上において公表しています。

サイトでは、各都道府県の高齢化率・身体障害者手帳交付者数といった基礎データに始まり、旅客施設・車両・歩行空間・建築物といった指標別のバリアフリー情報がランキング形式を取り混ぜながら公開されています。また、市町村・旅客施設別のバリアフリー基本構想の作成状況も合わせてご覧いただけます。

アドレスは <http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/BFI/bfi.html> です。

都道府県別バリアフリー情報



バリアフリー情報（指標別）



[建築物](#)



[交通バリアフリー
基本構想策定状況](#)



[データ注釈について](#)



その他参考情報

- ➔ [移動円滑化実績等報告書の集計結果概要](#)
- ➔ [旅客施設・車両等のバリアフリー化の目標](#)
- ➔ [国土交通省の整備する官庁、その他公共施設等の
基本構想の受理状況](#)

消費者行政インタビュー

～おもてなしの心を大切に～

(JR四国 サービス介助士 野村さんに聞く)



JR阿南駅 営業指導係
野村 晋也さん

今回は「職場の最前線を訪ねて！」ということで、平成16年11月よりスタートしています、JR四国のサービス介助士のおひとりで、阿南駅営業指導係の野村晋也さんにお話をお聞きしました。

サービス介助士制度とはどのようなものでしょうか？

JR四国ではお年寄りや身体の不自由なお客様が安心してご利用いただける鉄道を目指し、駅施設等のバリアフリー化改良工事を進めているのですが、ハード面だけでなくソフト面での一層のサービス充実を図るために、駅係員・車掌・運転士が、NPO法人日本ケアフィットサービス協会が認定を行うサービス介助士の資格取得に向けて研修を受けています。

資格取得者は、歩行の介助や車イスの操作のお手伝いをするはもちろん、他の社員に対しても介助についての知識や技術を伝え、すべての社員が資格取得者と同等のサービスができるよう指導を行っています。

JR四国全体でサービス介助士の方は何人配置されていますか？ また、阿南駅では何人の方が配置されていますか？

現在四国管内の主要21駅に23人、車掌・運転士の所属する車掌区・運転区所では7カ所に15人の合計38人が既に配置されています。

今後は四国管内にある31の主要駅すべてにサービス介助士を配置できるよう資格取得を進める予定です。なお、阿南駅では私が代表で資格を取得しています。



サービス介助士が着用するIDカード

野村さんお一人だけでは大変だと思いますが…

資格を持っているのは私だけですが、最初にお話ししましたとおり、資格を持つ者がその知識・技術を他の社員に伝えることにより、多くのお客様に満足いただけるように努めています。

阿南駅を代表して受講されたわけですが、2級サービス介助士資格取得にあたってのエピソードがあればお聞かせ下さい。

研修の中で特殊な器具を装着してお年寄りや身体の不自由な方と同じ状態を体験する講義があったのですが、こうした方々が日頃いかに大変であるかということをもっと痛感しました。

介助士資格取得が業務以外に反映されることがありますか？

これまでは、お年寄りや身体の不自由な方の気持ちや身体の状態についてあまりよく分かりませんでした。この資格取得を契機に、家の中でも外出先でもお年寄りや身体の不自由な方の動向について目が行き届くようになりました。



野村さんご自身はこれまで業務以外で介助体験はありましたか？

現在、85歳になる同居の母親の面倒を看ていますが、年を重ねるたびに動作が鈍くなったり物忘れが多くなったりといった状況ですので、妻と二人がかりで母の髪を洗ってあげたりして、かなり大変です。それでも休日には母の好きなところへ連れて行ってあげられるようにして、できるだけ家に閉じこもらないように努めています。

また、当駅から選抜して受講者を決めたわけですが、こうした家庭事情もあり、受講を決意しました。

ふさがちな気持ちを明るく保つためにも外出することはとても大事ですし、その外出のための移動円滑化を野村さんも担っていらっしゃるということですね。



鉄道駅全体におけるバリアフリーについて、現場で感じておられることがあればお聞かせ下さい。

幸いながら当駅は設備的には恵まれています。一歩駅の外に出ればまだまだ段差等が数多く存在し、お年寄りや身体の不自由な方の移動の妨げになっています。

そのような現状を踏まえながら、私どもも、月に1回30分程度のミーティングを行い、サービス介助士制度をよりよいものにするために努力して参りたいと思います。

阿南駅で開催の交通バリアフリー教室にて

丸亀市と阿南市で交通バリアフリー教室を開催

11月9日(水)、四国運輸局と香川運輸支局は、JR丸亀駅施設と琴参バスの車両2台を使って「交通バリアフリー教室」を開催しました。

教室に参加した丸亀市立城北小学校6年生53名の皆さんは、講師の先生に教わりながら、車いす利用者・視覚障害者の介助の方法を学びました。また、琴参バスの方からはバスの乗り方等について教えていただき、日頃バスを利用する機会の少ない生徒の皆さんは貴重な体験をすることができました。

駅構内での介助体験では、初めての車イスやアイマスクに戸惑いながらも、一生懸命にペアのクラスメートと助け合いました。生徒の皆さんは一様に障害を持つ方たちの日頃の苦労を痛感するとともに、困っている人を見かけたら何かお手伝いしたいという気持ちを新たにされたようです。



駅設備の音声点字案内板の説明



車イスを使ってノンステップバスに乗車

一方、12月8日(木)には、徳島運輸支局とともに、JR阿南駅においても「交通バリアフリー教室」を開催しました。

今回は阿南市立宝田小学校4年生24名と、同市立吉井小学校4・5年生41名の計65名の生徒さんをお迎えしての教室となりました。

初めての2校合同の教室でもありましたが、生徒の皆さんは非常に礼儀正しく教室に臨まれました。

教室では、車イス利用者・視覚障害者の介助の方法を学んだほか、シニアポーズという特殊な器具を装着し、高齢者の疑似体験も行いました。

特に高齢者疑似体験では器具により身体を固定されたまま駅構内を移動しましたが、体験した生徒さんからは「腰が痛かった」「お年寄りのつらさが分かった」等の声が寄せられました。



アイマスクを着用した視覚障害者介助体験



特殊な器具を装着しての高齢者疑似体験

J R阿南駅を訪ねて



阿南駅西口正面



珍しい前後両開きのエレベーター

徳島県内を南北に結ぶJR牟岐線。この中心に位置する阿南駅は平成15年11月に徳島県下では初めての橋上駅としてリニューアルされました。

これにより駅構内にはさまざまなバリアフリー設備が整備されています。

そこで今回は、消費者行政インタビュー、バリアフリー教室の両方でお世話になりました阿南駅のバリアフリー設備を紹介したいと思います。

特筆すべきは、四国の鉄道駅でも珍しい両開きのエレベーター。駅外部と駅舎内、駅舎内とホームを同じエレベーターで結んでいます。初めての方には不思議なエレベーターですが、是非みなさんも利用してみてください。その他にも点字対応の券売機や多機能トイレなどを備えています。



オストメイト対応の多機能トイレ



駅と高速バス乗り場を結ぶ連絡通路

交通ボランティアのすすめ

耳の不自由な方へのサポート編

耳の不自由な方へのサポート

聴覚障害は個人差が大きく、コミュニケーション障害や情報障害の程度が異なります。駅の案内放送、発車ベル、車内放送などが、聞こえません。事故、故障などの緊急時にも放送が聞こえないために、不安を感じています。話しかけるときの基本、効果的な筆談方法、簡単な手話を使ってサポートします。



コミュニケーションの取り方には、補聴器、口話、身振り、筆談、手話等が考えられます。障害者の状況に合わせてコミュニケーションをはかります。

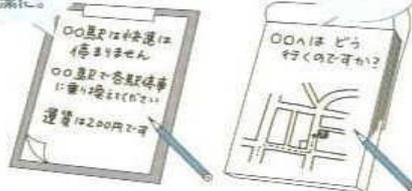
声をかけても、反応がない場合、相手の視界に入るようにしてゆっくり話しかけます。言っていることがわからないときは、分かったふりや臆測にまかせず、丁寧に聞き返して確認をします。

筆談によるコミュニケーションも有効



筆談はわかりやすく要点を簡潔に。

地図等による案内も理解を助けます。



四万十市と松山市で交通アドバイザー会議を開催

国土交通省では、公共交通機関の利用者利便の向上等を図るためのモニタリング制度として、平成4年度に「交通アドバイザー制度」を創設しています。

この制度に基づき、四国運輸局の管内各県ごとに、当該地域での公共交通機関利用者各層から、職業、性別等を幅広く考慮して、交通アドバイザーを委嘱しています。

管内の運輸支局では原則として年1回「交通アドバイザー会議」を開催することとなっており、会議では交通アドバイザーの方から、公共交通機関が提供するサービス等の改善に資する意見や国土交通省の公共交通施策全般に対するご意見をいただいています。

今年も各県で交通アドバイザー会議が順次開催されていますが、今回は高知県、愛媛県での会議の様をお伝えしたいと思います。

まず、10月21日(金)に高知県四万十市において、高知運輸支局主催で会議が開かれました。

会議では岩田 裕 高知大学名誉教授をはじめとする6名のアドバイザーの方々にご出席いただき、公共交通に関するご提言をいただきました。主な内容としては、オンデマンド方式という利用者にとって本来便利な運行形態であるはずの「まちバス」がPR不足により客足が減少していること、また、鉄道とバスの連携を強化して観光客を中心とした利用者の利便の向上を図ることその他について提言がなされました。



一方、12月5日(月)には、松山市において愛媛運輸支局主催により会議が開かれ、寺谷亮司 愛媛大学教授を座長に迎え、他7名のアドバイザーの方々からご意見をいただきました。

アドバイザーとして2名の外国人の方々や留学生支援のNPOの方もお集まりいただき、外国人の視点から見た分かりやすい交通マップのあり方について議論がなされる一方、路線バス活性化に向けた「オムニバスタウン」計画や既存の旅客船のバリアフリー化について提言がなされました。

なお、この交通アドバイザー会議ですが、今年度中に香川県と徳島県でも開催予定ですので、次号でも引き続き紹介していきたいと思っています。



バリアフリーボランティア事業について

現在、交通バリアフリー法に基づいて旅客施設や車両等のバリアフリー化整備が進められていますが、高齢者や身体障害者の方々の移動の円滑化のためには、これらの整備とともに現場における人的な対応も欠くことのできない重要な要素です。

国土交通省では、このような観点から、今年度、鉄道駅等で待機して、案内、介助等を希望する人を支援するボランティアモデル事業を実施しており、18年度からは本格実施が検討されています。四国運輸局では、今後の参考とするために、去る9月、広島駅周辺で行われていたモデル事業の現場を訪れました。以下はその見聞記です。

広島駅ボランティア見聞記

●ボランティアの現場にて

その日、広島駅のボランティアは男性が2人と女性が1人。駅の大きさに比べて何ともちんまりした印象である。テーブルには様々なパンフレットが所狭しと並べられていて、しばらく様子を見ていると、通りすがりの人が立ち寄って話し掛けたり、それらを取って行ったりする。だが、我々が見ていた間には介助が必要そうな人は現れなかった。

しばらく経って近寄り、話を聞いてみた。



中国地方の玄関口・JR広島駅

「今日、ボランティアは3人だけですか？」

「ええそうです。日によってばらつきがありますが、大体平日はこんな感じで、土日で10名くらいかな」

「それくらいの人数で大丈夫ですか？ やっていただけますか？」

「平日はもう少し欲しいですね。人が集中することもありますから。でもバスターミナルや宇品港でもボランティアをやっていますし、平日に動ける人は少ないですから..」

「パンフレットを持って行ったり道案内をして貰っている人が多いみたいですが、介助が必要な人が来ることは、あまりないですか？」

「そうですね、時々高齢者や身体障害者等の手助けが必要な方も来られますが、やはり行き先案内が大半ですね。また、申し込まれる方がひとりもない日もあります」

話を聞いていると色々問題もあるようではあったが、3人のボランティアはそれぞれ、てきぱきと訪れる人に対応しており、「バリアフリーボランティア事業」自体はよく機能しているという感じだった。特にまだ高校生だという若い男性は、昔から電車やバスが好きだったということで、行き先案内などではまさに適役という感じ。対応の言葉も巧みで、足取り軽やかにさっと停留所へ案内して行く。全く感心するほど有能なボランティアである。手弁当でこういう人達が集まって来るからこそ、ボランティア事業は成り立つのだなとしみじみ思った。ただ、高校生の彼が、何故、毎日のように昼間の駅ボラに参加できるのかが不思議ではあったが...



駅前に設置された案内ブース

●ボランティア現場を見て思ったこと

あれだけ人の多い広島駅なのに、ボランティアステーションに立ち寄る利用者が少ないことと、大部分が行き先案内やパンフレットを求める人だったことに先行きの不安を覚えた。果たして四国でボランティア



事業をやって、手助けが必要な利用者がどれくらいやって来るのだろうか？

結局、このボランティア事業が本来の目的を達成できるかどうかは、如何に一般の人への周知を図ることができるか、如何に意欲的で指導力のあるボランティアに参加してもらえるかにかかっているのではないだろうか？特にボランティア要員の存在は大きい。部分的なボランティアばかり沢山集めても決して成功しないだろう。時間と手間を惜しまず、可能な限りボランティアステーションに詰めて、利用者への対応や事業運営、ボランティア要員のまとめなどを積極的にやってくれるリーダー的な人

達—そういう人達がいることによって初めて、ボランティア事業が活性化するとともに、その他の一般ボランティアの意識が高揚し、彼らの充実感も増すのではないだろうか。(以上、消費者行政課 川北によるレポート)

「駅ボラ」ってどうよ？

～近鉄鳥羽駅でのボランティアのブログについて～

8月に鳥羽で行われたボランティアモデル事業(中部運輸局主催)の様子が、下記のインターネットブログに掲載されています。

「駅ボラ」なる、ボランティアの方々の活動状況や感想などが生き生きと報告されていて、とても興味深いブログです。関心のある方は是非一度ご覧下さい。

(「駅ボラ」ブログはこちらからどうぞ

<http://blog.goo.ne.jp/ekibora>)

それにしても役所関連のイベント等のネーミングって堅苦しかったり難解な横文字がとかく使われがちで、これが役所と世間一般との「バリア」になっているのもまた事実です。

その点、この「駅ボラ」、インパクト大！です。駅ボランティアそのものは、2001年から横浜市交通局が募集を始めたのが最初のようなのですが、下記ブログによって世間一般に広まっているといっても過言ではありません。そのうち学生の間で「今日どっか寄り道しようぜ」「わりい、俺、今日駅ボラだから」なんていう日が来るのもそう遠くないかも・・・



© 駅ボラブログ

四国でも「駅ボラ」を！

情報をお待ちしています

広島や鳥羽のボランティアモデル事業で、中心となって活動を支えているボランティアの方々の存在を知るにつけ、四国でもそのような人々を、どのように見出し参加を求めていこうか、今後の大きな課題であるというところですが、ボランティア

事業をやるときには是非参加したいという方、適任なボランティア候補を知っているという方は、奮って当課までご連絡下さい。よろしくお祈りします。



高松市朝日新町1-30



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心に
して、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通
事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。
このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変
更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メール
の返信機能でご連絡ください。